

# もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: [hgakuren@lime.ocn.ne.jp](mailto:hgakuren@lime.ocn.ne.jp)

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. インターハイ (8/5~9 香川県) 報告
2. 国体ブロック大会 (8/19~21 広島県 CER0) 報告
3. 登山教室 (8/20~21 高津川水系) 報告
4. 個人会員ありんこチーム活動 (8/16~17 烏ヶ山、矢筈ヶ山~船上山) 報告
5. 岳連短信 (寄贈御礼、9~10 月の行事予定、写真展案内)

## 1. インターハイ報告

(県高体連登山部委員長 廿日市高校 美藤 陽一)

今回のインターハイについて報告します。

8/5 開会式 46 都道府県からエントリーがありましたが男子 4 県、女子 2 県が新型コロナの影響で出場辞退となりました。広島県からは男子 広島学院高、女子 ノートルダム清心高が出場しました。両校とも厳しい県予選を突破しての出場で入賞の期待大でした。開会式はまんのう町のスポーツセンターまんのうで行われました。開会式後、登山隊編成、諸審査(ペーパーテスト、天気図作成)が行われ、その後ことなみ未来館での設営審査が行われました。昨年同様、今回も新型コロナの影響で炊事審査はなく、選手は宿舍泊となりました。

8/6 登山行動 1 日目は笠形山コースの登山行動となりました。3 日間中、最も長いコースでしたが、天気もよく、順調に登ることができました。

8/7 登山行動 2 日目は竜王山コースの登山行動となりました。この日は天気予報が悪く心配されていました。朝は雨は降っていませんでしたが蒸し暑く、

最初いきなりの急登で、体調を崩すチームが 2 チーム出て、救急車を呼ぶことになりました。その後、竜王峠で男子が出発して女子が来た頃から土砂降りの雨となり、今度は低体温症が心配される事態となりました。1 時間ほどで雨はやみましたが、かなり厳しい登山行動となり、このあたりで各校での差がついたようです。

8/8 登山行動 3 日目は大川山コースでの登山行動となりました。この日は快晴で、気持ちよく登山ができました。大川山山頂の神社で選手が監督と合流して以後パーティ行動となり、選手監督共々和やかに下山し、全登山行動を終了しました。

8/9 閉会式 審査結果発表、なんと広島学院が見事に優勝となりました。得点は 99.3 点、2 位と 0.2 点差でした。読図の 0.5 点減点以外はほぼ完璧な内容で、広島県のレベルの高さを全国に示すことができました。ノートルダム清心も順位は 23 位でしたが得点は 95.9 点でなかなかがんばりました。

今回は「四国はひとつ」の名のもとに四国 4 県が協力して大会が運営され素晴らしい大会となりました。3 年後に広島大会が予定されていますが、またこのような素晴らしい登山大会になるようにしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。





広島学院の優勝は 14 年振り 4 回目

以下、広島学院選手/監督の感想文です。

(2年 的場 正純)

僕にとって、今回が初めてのインターハイだったので、分からないことも多く、周りの多くの方に支えていただきました。A 隊になって、勝ちたいという思いが途切れたことはありません。情熱を燃やして日々裏山を登り、より上を目指してきました。しかし、中学登山部の頃に当たり前の様に行っていたテント泊の遠征や炊事は、高校になってからはほとんどできませんでした。それでも、最高の仲間と励まし合い、共に練習して高め合ってきた成果が結果として出て、本当に良かったです。前半に読図でミスをしてしまっても、諦めずに一緒に戦ってくれたメンバーには本当に感謝しています。香川の山の美しい尾根線、鋭い緊張感とこれ以上ない達成感は一生涯忘れません。最後に、厳しい状況の中、大会を開催、運営してくださった皆様、本当にありがとうございました。

(2年 西尾 嘉輝)

競技登山って不思議だ。登山は老若男女が楽しめるスポーツなのに、競技登山ができるのは人生の中で高校生の 3 年間だけしかできない。しかも、コロナ禍でいつ大会が中止になってもおかしくない中、参加させていただけたことは本当に奇跡だと思う。

そして、沢山の尊い体験もさせていただけた。

日本中の高校生活を登山に捧げる方々と出会い、多くの友達ができた。また、そんな貴重な場で最高の結果を収めて、今までに感じたことがないほどの喜びと達成感を得られた。さらに嬉しいことに、競技登山について興味を持ってもらえることも増えた。

そして、私達がこれらの体験ができたのは、沢山の方々のサポートと数えきれないほどの方々の応援があったからだ、と再認識することができた。皆様、本当にありがとうございました。

最後に、これだけは自信を持って言える。私は日本一の幸せ者だ。

(2年 田村 由羽)

インターハイが終わり、ふと振り返ってみると、A 隊



が編成されて半年ほど経っていることに驚きました。県総体までで3ヶ月、そこからインターハイまで2ヶ月、執筆時点でインターハイから1ヶ月ほど過ぎましたが、未だにそれを経て得たものや、感じたものが、整理できていない、言葉として表現できていません。朝の歩荷で疲れ果て、夜10時には布団に入っていたあの頃は、大会に対する焦燥感からか、時間の流れが早く、大会までの日数を数えるたびに、その短さにさらに落ち着かず、大会当日ともなると、期待と不安のあまり狐につままれたような不思議な感覚でいました。しかし明確な目標の下に過ごした日々はとても濃密で、思い出は枚挙に暇がありません。今はどこか非現実的な、それこそインターハイでの出来事がまるで夢であったかのような、不思議な感覚で日々を過ごしています。これからゆっくり時間をかけて、その経験を自分の中で消化することで、今回の挑戦をもっと有意義なものにしていきたいです。

(監督 鍵本 和也)

昨年度から2年連続で全国大会に出場を果たすことができました。これは部としてとても嬉しいことで、昨年度に全国大会に出場した選手たちが、そこで見たたり、聞いたり、感じたりしたことを次に出場する後輩たちに直接伝えてくれる中で、今年度の選手たちは先輩たちの言葉や背中から「優勝したい」という気持ちを引き継いで大会に臨むことができました。部全体で非常に高い志をもって練習に取り組んでいたと思います。

と言っても、その思いを実際に形にしていくのはたやすいことではなく、「努力を持続すること」「歩みを止めないこと」の大変さを傍で見守りながらひしひしと感じました。選手4人全員が最高のコンディションで居られることはそうそう無く、毎日形を変えて生まれる凸凹に4人で向き合い、懸命に整える日々でした。「勝ちたい」という思いは皆同じなのに、ささいな考え方ややり方のズレから衝突が生じることもありました。けれども、「この4人で最後までやり遂げる」という気持ちを常に強く持ち続けていたことが、チームとしての最大の強みだったと思います。

その中で、今回も全国大会に出場して良かったと思ったのは、選手たちが他県の選手たちとの出会いをとても楽しんでいる姿を見たときでした。山という共通の楽しみを持つ同年代の仲間が増えたこと、大川山の山頂で一緒に語らったこと、写真を撮ったこと、計画書を交換したこと……挙げればキリがないくらいに楽しい思い出ができたようです。私自身も1年ぶりに再会した他県の監督と語らう時間はとても楽しくて、刺激をもらおうと同時に改めて登山の楽しさは人や自然との“出会い”にあることを感じました。

この大会で見たり聞いたり感じたりしたことを、今回の選手たちはまた次の代へと引き継いでいくことでしょう。私も一緒に楽しく練習に励んでいきたいと思っています。

## 2. 国体ブロック大会報告

(競技部長 錦織 宏)

中国ブロック大会が8月19日～21日に(会場：クライムセンターCERO)、コロナ感染拡大防止により無観客で開催されました。中国5県の各チームがブロック突破枠(少年男子2枠、少年女子2枠、成年女子1枠)をかけて戦い、広島県は少年男子総合2位、少年女子総合5位、成年女子総合2位の結果で終了。栃木国体へは、中国ブロック突破の少年男子とフルエントリーの成年男子が出場することになります。

今年度のブロック大会は広島開催ということもあり、事前準備や当日の大会運営など多くの方に協力していただき、無事終了することができました。

以下、各種別の監督選手の感想です。

(なお、無観客での大会であったため、残念ながら写真はありません。)

### 少年男子：延近昌彦 監督

第77回国民体育大会中国ブロック大会スポーツクライミング少年男子監督として参加させて頂きました。リード・ボルダリング競技の成績を競う中、各ルートを見ても苦戦するルートだと感じました。しかし両選手は競技中アドバイスを交わし、最後まで諦めず、とても良い登りでした。両競技の総合結果2位となり本国体への切符を手にする事が出来まし

た。本国体においても、両選手が全力を出し切れるよう監督としてサポートに努めて参ります。

#### 少年男子：大下賢実 選手

私は中国ブロック大会に出場するのは初めてだったので、今まで出ていた大会との違いに不安がありましたが、経験されている延近監督と香川くんのおかげで安心して大会に挑むことができました。また、自分がクライミングを始めるきっかけとなったセロさんが会場だったのは感慨深く、心強くもあり、今の実力は出し切れたと思います。国体にむけ自分の課題に向き合い、香川くんと一緒に一生懸命頑張ってきて来ます。大変な状況の中、大会を開催していただきありがとうございました。

#### 少年女子：大島修子 監督

初日のリードは1番スタートということもありかなり緊張したと思います。もっとリラックスできるような配慮が必要だったと反省しています、2日目のボルダーは自分の伝達不足で競技に参加できず選手には本当に申し訳なかったです。この経験を無駄にせず、来年は是非ともブロックを突破したいと思います。

#### 少年女子：西原ひなた 選手

今回の中国ブロック大会ではリードの+の差で個人順位が大きく下がってしまい悔しさと同時に一手の重要さを感じました。他県の強い選手の登りと自分の登りを見比べることができる良い経験になりました。ありがとうございました。

#### 少年女子：折出ひより 選手

初めての中国ブロック大会、普段の練習では学べないことを学ばせていただいた機会でした。また、この大会を通して自分の実力はまだまだなのだなど改めて痛感しました。失敗もあり、沢山の方に迷惑もかけてしまいましたが、今回の悔しさと学びを糧にして、これからもっと強くなれるよう、頑張ろうと思います。応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

#### 成年女子：錦織宏美 監督

今年の成年女子は国体常連選手がそろそろ山口、鳥取とブロック通過枠1を競う厳しい状況。また、競技

自体はじめての選手が雰囲気飲み込まれてしまわないかと心配していましたが、チームでしっかりコミュニケーションを取りながら挑むことができ、結果としては総合2位と来年に期待できる成果が残せたと思います。挑戦してくれた2名の選手に感謝。

#### 成年女子：錦織美里 選手

初めてのペアでしたが、2人で協力し合って取り組むことが出来ました。本国体出場には届かず悔しい思いでいっぱいですが、来年に向けて今大会で見つけた自分の課題に向き合っていきたいと思います。応援ありがとうございました。

#### 成年女子：山高友佳里 選手

リード・ボルダー共に初めての大会で、特にリードは大会に向けて始めた種目でした。三ヶ月という短い練習期間でしたが、一から教えて下さった方々のおかげで当日は不安なく精一杯登ることが出来ました。最初から最後までずっと一緒に登ってくれたペア選手、そして大会関係者の方々、本当にありがとうございました。

### 3. 登山教室報告

(指導部長 森本 寛)

第5回 8/20(土)~21(日)

登山形態：沢登り

山城：高津川水系

人数：13名 (スタッフ含)

3年ぶりに沢登りに行ってきました。今回はコロナ禍で実施できなかった期間の受講生さんも補講として参加OKとしました。1日目は前日までの雨で水量も適度に増して教室としては良い環境で行えました。2日目は直前までの降水量を判断し奥三段狭の予定をエスケープしやすい奥匹見峡の三の谷に変更してロープワークの講習を行いました。(森本)

#### 【感想文】

『広高谷及び三ツ谷ルート(沢登り)』

(登山教室2年 島本 章生)

1日目広高谷ルート、2日目は奥三段から三ノ谷ルートに変更。1日目は前日雨の当日曇り一時雨、2日目は未



明に大雨、入渓後は曇りのち晴れでした。皮肉にも雨に恵まれ、両日とも水量が多くて、初の沢登りにしては、アクティブで貴重な経験となりました。

本来、私は冷たい水は苦手なのでどれだけ身体が冷えるのか恐れていたものの、心地よい冷たさは意外でした。歩いてみると、水面に光が反射して川底は見えにくく、足の置き場を探りながらの歩行となり、思いのほか疲れました。滝場では、足と手の置き場をしっかりと確保して上がらないと、強い水流により体が落とされる危険を強く感じました。岩壁のクライミングと同じく、やはり手より足場の確保が特に重要でした。沢登りの危険度は、通常の登山より格段に大きく、上級者のサポートがないと入渓できません。今回のルートの設定および森本リーダーをはじめとするスタッフの皆様の指導及びサポートにはいつもながら頭が上がりません。ロープワーク講習もとても勉強になりました。改めて、当登山教室は日本一だと思いました。

今回の泊りは、廃校の匹見の小学校夢ファクトリーで、当時の時間割なども壁に貼られたままで自分の小学校時代を思い出しました。食事はまさしく料理教室さながらでした。下手な私のキムチ鍋を全部食べてくれた皆様には感謝しかありませんでした。OさんとRさんが中心となってこしらえてくれた朝ごはん及び行動食のお弁当は、おふくろの味を思い出させてくれました。皆様、ありがとうございました。なお、私は、しばらくキムチ鍋は遠慮したいと思います。

(写真提供 森本 寛)



## 4. 個人会員ありんこチーム活動報告

(顧問 岡谷 良信)

参加者の感想文ならびに写真を掲載します。

## 『アリンコ初参加奥大山の記録』

(個人会員 豊田 和司)

7月16, 17日。個人会員アリンコチームの山行に初参加させていただいた。16日は奥大山の烏ヶ山(からすがせん)。キャンプ場からのゆるやかな登りが急登になる頃、雨が降り始めたので小休止して雨具を着ける。ここで、ズボンのカップとスパッツを着けなかったのが失敗だった。山頂に迫る頃から遠雷が響き始めた。谷は深い霧に覆われて、そこから聞こえてくるようだ。山頂での記念撮影もそこそこに下山にかかる。稜線に出ると鳥の声が聞こえてきた。しめた、晴れる。と、思いきや、雷鳴も同時に聞こえる。右の谷は霧が晴れて、キャンプ場も見え隠れするのに、雷鳴は左後方から響いてくる。そのうち、腹の中からも雷鳴が響いてきた。空腹だ。小休止して、行動食をむさぼり喰う。あたりが暗くなってきたからか、音だけでなく光が感じられるようになってきた。ピカッ。「いっち、にいい」と秒数を数えると、音が鳴るまで11から12秒。音速を340メートルとして、約4キロの地点で落雷している模様。そのうち、たたきつけるような雨となった。夜明け前のような暗さの中、必死で前の者を追いかける。ピカッ! 「いっち、にいい」パリパリッ、ドーン。乾いた音が不気味だ。半径700メートル地点に着弾した模様。もはや小川となった小道を、背丈より高い笹をかきわけながら前の者に遅れまいとついて行く。川は時々田んぼのような泥濘になる。森の中なので、直撃はないと高をくくっていたが、水は電気を通すので、感電することもあると、後で教えられた。新小屋峠の車道にたどりつくと、ようやく小降りとなった。登山靴の中まで水浸しだ。チャブチャブ音をたてて車道を歩く。ここまで徹底して濡れると、いっそ気持ちが良い。雨あがり、水たまりで長靴の中に水が入っても、ごきげんで遊んでいた子供の頃を思い出した。

## コースタイム

鏡ヶ成キャンプ場 11:00 新小屋分れ 12:56/13:19  
 烏ヶ山 13:33/49 新小屋分れ 13:57/14:05 1230 ピーク 14:52/53 新小屋峠 15:29/47 休暇村奥大山 16:24

翌日は、川床を出発し、矢筈ヶ山(やはすがせん)、甲ヶ山(かぶとがせん)、勝田ヶ山(かつたがせん)を縦走し、船上山に至る。3山とも、「せん」と呼ぶのは、信仰の山であった証拠だろうか。前夜は、一向平でキャンプする予定であったが、O氏の友人のご厚意で、山小屋に泊まることができた。

ひんやりした川床を出発。大休峠までのゆるやかな登りは、朝日が斜めに差して緑が美しい。列の後ろから見ていると、その緑の光の中に、先頭から順に消えていく。写真家ユージン・スミスの「楽園への歩み」を思わせる。

甲ヶ山からゴジラの背に至る山稜で、ふいに涼風の洗礼を受ける。切り立った左の谷から風が吹き上げてきている。右も深い谷だが、広くて緑豊かだ。「劔(コダマ)して山ほととぎすほしいまま」杉田久女がこの句を得たのは、北九州の英彦山(ひこさん)だが、背後にはこのような雄大な景色が広がっていたに違いない。

勝田ヶ山から船上神社、そこからも長く感じられた。人が一人で半日すごすにも、重たい水と食料を背負わねばならない。後醍醐天皇が壱岐の島から逃れて、なぜこのような山の中に行宮(あんぐう)を設けられたのか、不思議である。調べてみようと思う。

## コースタイム

川床登山口 6:41 岩伏分れ 7:20/28 香取分れ 7:52/55 大休峠 9:16/19 1300m ピーク 9:52 矢筈ヶ山 10:25/36 小矢筈 11:07/16 甲ヶ山 12:14/27 ゴジラの背 12:45/46 甲ヶ山の肩 12:54 勝田ヶ山 13:27/44 船上神社 15:27/32 船上山避難小屋 15:49/57 横手道分岐 16:21 船上山東坂コース登山口 16:30/31 ゴール地点 16:32



## 5. 岳連短信

### 1. 寄贈御礼

8/20 三原山の会『筆影』No. 510 (9月号)

広島山稜会『峠通信』第 759 号 (9月)

福山山岳会『会報』9月号

広島やまびこ会『やまびこ』793

広島山岳会『山嶺』第 885 号 (8月)

8/20『中信高校山岳部かわらばん』711

### 2. 9～10月の行事予定

9/27～10/2 第3回連盟写真展 (NHKギャラリー)

10/2～4 第77回国民体育大会SC競技 (栃木県壬生)

10/26 全員協議会

10/28～30 中国高校登山大会 (岡山県那岐山)

### 3. 写真展案内

上の行事予定にも記しましたが、昨年度コロナ禍で中止となった第3回写真展を 9/27(火)～10/2(日)に NHK ギャラリー (広島市中区大手町の NHK 広島放送センター 2階) で開催します。

開場時間は 9:30～17:30 (最終日は 16:30 まで) です。ぜひお立ち寄りください。

## 編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい

